

令和4年度 東条学園小中学校 学校評価（年間）

4・・・よくあてはまる 3・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・まったくあてはまらない ※（ ）は昨年度

評価の観点	評価項目	実 践 目 標 と 成 果		評 価		
				教職員	児童生徒	保護者
生きてはたらく学力	基礎基本の確実な定着・学びに向かう力	成果	研究授業を通じて「どこまで力をつけさせるか」「どのような力をつけてきているか」を知ることができた。	3.3	3.5	3.4
		課題と方策	「つけるべき力」が足りない、「つけてきた力」を生かせてない。以上の点を共有し授業づくりに努める。	(3.3)	(3.6)	(3.5)
	思考力・判断力・表現力の育成	成果	「学びのつながり」に加え主体性や他者との関わりを目指す授業を実施し、改善点を協議できた。	3.1	3.6	3.4
		課題と方策	学習内容、学習スキルを混在させたまま研究を進めたが、これらを分けて考える必要がある。	(3.1)	(3.6)	(3.5)
	ICT活用指導力の向上	成果	1人1台タブレット使用に際し、授業での振り返りなど、教科横断的な使用ができた。	3.4	3.6	3.3
		課題と方策	タブレット使用が効果的である場面についての研修を行い、日常的に使用できるよう知識を深める。	(3.5)	(3.7)	(3.3)
他者とつながる力・ 他を思いやり、互いに高め合う心	体験活動等の充実	成果	体育大会では、学園会が企画・運営を担った。今年度は、新演技の取り入れ等にも取り組んだ。	3.5	3.7	3.7
		課題と方策	第Ⅰステージの児童と第Ⅱ・Ⅲステージの児童・生徒がつながれる、一層定期的な活動を取り入れる。	(3.4)	(3.6)	(3.6)
	道徳教育の充実	成果	ペアトークやICT機器を活用して補助発問、中心発問をよく考えられるようになった。	3.0	3.5	3.5
		課題と方策	児童生徒の発言を拾い問い返す授業者の技術の向上が課題である。講師招聘し授業力を高める。	(3.0)	(3.6)	(3.4)
	平和学習	成果	学んだことを意見の交流をすることで、戦争の悲惨さ平和の尊さについて考えを深めることができた。	3.7	3.4	3.6
		課題と方策	平和な世の中の担い手として世界情勢に関心を持ち、自ら考え様々な角度からアプローチしていく。	(3.3)	(3.4)	(3.5)
健康な心身 安全意識	健康や体力の増進	成果	ランニング、筋力トレーニングに加え、縄跳びやストレッチを取り入れ、体力・運動能力が向上できた。	3.3	3.7	3.6
		課題と方策	授業の取り組みだけでなく、家庭での体力・運動能力の向上のための取り組みを考える必要がある。	(3.2)	(3.7)	(3.6)
	健康な心身の育成	成果	日々、児童生徒が感じている困り感を細かく把握することができた。	3.2	3.4	3.3
		課題と方策	発達段階によって書く内容に差異があり、各学年の発達段階に合わせた指導が必要である。	(3.5)	(3.4)	(3.3)
	危機管理の充実	成果	通学路の見える化が図れた。教師の指導により児童生徒が自らの命を守る能力向上につながった。	3.4	3.6	3.5
		課題と方策	事故が多い道路や危険な通学路での自転車の乗り方について、今後も児童生徒へ注意喚起を行う。	(3.4)	(3.7)	(3.5)
心通う集団づくり、 積極的な生徒指導	教師の協働した指導や支援	成果	SCやSSW、生活補助員、担任等と情報交換ができた。生徒指導委員会でも、情報共有ができた。	3.6		
		課題と方策	SCやSSWを活用しながら、月1回情報共有をする時間を設定するとともに対策を練る。	(3.4)		
	児童生徒の内面理解と人間関係づくり	成果	要支援群の児童生徒に対する対応を具体的に相談でき、内面を想定した先手の指導ができた。	3.4	3.4	3.3
		課題と方策	Q-Uなどで内面をつかんだ結果を生かして、学園全体に必要な指導や研修を深化する必要がある。	(3.4)	(3.5)	(3.4)
	自己管理能力の向上	成果	児童生徒が時間を意識し、守ろうとすることで、「立志」の基本となる力を養うことができた。	3.0	3.7	3.6
		課題と方策	昼休み後の掃除の始まりが曖昧になっている。時間を守るよう児童生徒に声掛けを行う。			
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援	成果	児童・生徒の実態把握に努め、個別の教育支援計画を作成し、支援を提案して実行できた。	3.3	3.6	3.3
		課題と方策	児童生徒の理解に努め、職員、保護者、児童生徒間の啓発と校内支援体制を充実させる。	(3.3)	(3.6)	(3.4)
	切れ目のない生徒支援	成果	加東市発達サポートセンターと連携し、発達相談や巡回相談等を実施できた。	3.5		
		課題と方策	前後期の連携を図り、教育課程のを理解を進め、児童生徒間の交流を進めるための手立てを探る。	(3.5)		
地域に開かれた学校づくり	地域での展示、地域行事やボランティア活動	成果	校外作品展示を行い、天神地区花植え、子ども夏まつり、ミニ文化祭等に多くの子どもが参加した。	3.8	3.3	3.5
		課題と方策	子どもたちが、自主的に地域行事やボランティア活動に参加するよう推進し、発信していく。			
	地域との協働	成果	コーディネーターが機能し、学校運営協議会、地域学校協働本部が両輪となり、活動が行われた。	3.6		
		課題と方策	地域住民の参画について、促進を進めていく。そのために教師自身が地域の出向くことを心がける。	(3.3)		
働きやすい職場環境づくり	生徒と向き合う時間の確保	成果	ICTを活用した教職員の連絡系統を確立したことで、学年総務の打合せ回数が減った。	3.0		
		課題と方策	教職員間の連絡を徹底させる。また、朝の職員打合せを効率化し、意思疎通と共通理解を推進する。	(3.1)		
	定時退勤日	成果	保護者等に、留守番電話の時間帯が浸透してきた。定時退勤日は、実施できた。	3.4		
		課題と方策	生徒指導や保護者対応等があった場合、実施できない日があった。臨機応変に別日に設定する。	(3.5)		
	ノー部活デー	成果	練習予定表を掲示することで、前期の児童も、クラブ活動や、部活動に興味を持つ子も出てきた。	4.0		
		課題と方策	クラブ活動も上手く活用し多くの教員で関わり、東条学園らしい指導体制をとっていきたい。	(4.0)		

	番号	質 問	児童生徒	保護者
生徒活動	13	自分は、明るくさわやかなあいさつをしている。	3.2 (3.2)	3.0 (3.0)
	14	自分は、友達を気遣い、思いやりを持って行動している。	3.6 (3.5)	3.4 (3.4)
	15	自分は、学校や社会のきまりを守っている。	3.6 (3.6)	3.4 (3.4)
	16	自分は、好ましい友達関係があり、楽しく登校している。	3.7 (3.7)	3.5 (3.5)
	17	自分は、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.2 (3.2)	3.0 (3.1)
	18	自分は、先生や友達と上手くコミュニケーションをとっている。	3.5 (3.5)	3.2 (3.2)
家庭生活	19	家庭では、あいさつや生活態度などについて教えてくれる。	3.5 (3.5)	3.3 (3.3)
	20	家庭では、学校の話をよくしている。	3.3 (3.3)	3.3 (3.3)
	21	地域の方は、地域全体の子どもに関心を持っていてくれる。	3.4 (3.3)	3.0 (3.1)
	22	地域と家庭は、協力して子どもを育てようとしてくれる。	3.6 (3.6)	2.9 (2.9)

（ ）内は昨年度の数値